

令和7年度 第1学期始業式（令和7年4月8日）

皆さん、おはようございます。新任の先生方をお迎えし、1年生と一緒に、147年目の東高の伝統をさらに新しく創り上げ、未来に繋ぐ、そんないい1年にしていきましょう。高い目標、広い視野、豊かな心、高く広くそして豊かに、「情熱と実行」の精神で、「頑張っていきましょい」の言葉どおりに、多少のことではくじけずに、全員で元気に頑張っていきましょう。

今日はボールを一つ持ってきました。これは私が昨年買った野球のボールで、ずいぶん汚れています。毎年5月に松山東高校と高松東高校との定期戦が行われていて、昨年は松山で行う年、その試合の始球式で投げてくださいと、昨年3月に野球部顧問の大屋先生に言われて、私は、野球は観戦も応援も大好きなのですが、実際にやるのは苦手で、正しい投げ方も知らず、キャッチャーまで届かない、困ったと思いました。野球殿堂入りの正岡子規の母校だし、プレッシャーもありましたが、心を決め、本番に向けた計画を立てて、実行に移しました。

3月にこのボールを買い、毎日触ってボールに慣れる、そして、自己流で投げ方を研究し、実際に近所の公園で投げてみる、58歳の白髪の人が何をしているのか不審に思われないように、さわやかな感じで、雨の日以外は、10分から20分くらい練習をしました。試合前になって、大屋先生と一緒に練習しましょうと言ってきて、初めてマウンドで投げてみました。案の定、最初は届かなかったのですが、大屋先生は教えるのもほめるのも上手で、次第に何とかかなりそうだ、と思えるようになったのが本番直前のことでした。

試合当日、高松東高校の皆さんに歓迎の言葉を述べ、始球式ではキャッチャーまで届く球を投げることができました。東高の生徒も相手校の選手も「ナイスボール」と言ってくれてうれしかった。このボールは、始球式にまつわる私の一連のかけがえのない経験を見届けてくれた、記念のボールです。

この話で何を伝えたかったかというと、目指すべきゴールまでの計画を立てて実行する、私のように苦手なことでも、自分で研究し、人に教えてもらい、ほめてもらいながら、なんとかできるようになっていく。学校生活も、大げさに言うと人生も、その繰り返しだと思いました。大学受験でも、部活動でも、学校行事でも、本番に向けて計画を立て、自分で研究し、練習し、勉強する。先生方に教えていただき、級友と励まし合って頑張っていく、そのことの大切さや意義を伝えたいと思って、今日は、この話をしました。

今日から始まる新年度、情熱と実行、目標達成のために熱い思いを持って、しかしながら冷静に計画を立てて実行する、そして、「頑張っていきましょい」の気合い入れとともに、多少のことではくじけずに元気に頑張る、そんな東高生の健康と健闘を祈って、式辞を終わります。